

# かけはし

NPO 千住文化普及会

平成19年1月1日  
千住文化普及会発行  
代表理事 榎原文夫

東京都足立区千住河原町29-5  
遊学庵 〒120-0037  
TEL/FAX: 03-3881-3232  
E-mail: info@basyoo.net  
http://senju.mizubasyoo.com/  
編集協力: HOPBOX、studio NIPPON、  
足立表象文化研究室



<黒須竹材>さんの門松作り>



息の合った仕事振りで竹の切り口を削り出す

第四回 千住文化基礎講座

江戸の千住は大賑わい

一〇日(日) 足立区郷土博物館の多田文夫学芸員を講師に、第四回目の開講。第二回で学んだ宿場の成立過程、市場の様子、文芸の特徴が、それぞれどのような関係にあったか、パワーポイントによる資料映像と板書による具体的な解説がありました。

千住宿の「地の利」として、①陸上交通と水上交通の幹線が交差していたこと、②江戸に接していたことがあげられ、積み替え荷物が発生する乗り換え地点である場所というだけでなく、江戸府内への中継点として、当時の江戸商圏に接していることと利点が指摘されました。

また、千住の市場は、交通網の成立による地の利を活かした「自然発生的なもの」で、御上が作った市場

ではなく、荷物を押さえることのできた問屋は、江戸府内の特権商人の要請にもとづき御用市場化を交渉する実力を培っていたということから、従って、千住の文化は「千住の酒合戦」に象徴的に見られるように、交通・流通との関連からの特色と、自律した問屋衆の支えによっているという特色を合わせ持っているといえるそうです。

交通については、千住宿と諸街道とのつながり、宿場の三大機能である人馬の継立・宿泊施設の用意・書状の送達の面からの解説があり、参勤交代の実際については特に詳しく、飛脚問屋の様子、貫目改所の機能などについて講義が続ききました。

既に東西南北の千住町歩きを経験している受講生は、地の利のイメージも分かりやすく、街道と宿場の当時の様子に思いを馳せ、より深い理解が得られたのではないのでしょうか。

のどかに晴れた二三日(土)、連れ立って近所の「黒須竹材」さんの門松作りを見学。あのスパツとした切り口(「そぎ」というらしい)は、ノコギリで引いたものでも、もちろん居合い抜き先の生が切ったものでもない。専門の刃物を使った職人の技だった。メジャーの類は一切なく、手許の感覚だけですいすい削り出す。ご本人たちはただの仕事と思われているかもしれないが、新年を迎える歳末の慶賀にたえない風物詩であった。

お正月ともなれば、かつては街

長谷川浩平の千住事件簿

犯科帖 6 正月の風景～門松

道沿いに(歳神を迎える依り代の)しめ飾りのついた竹が並び、浩平少年には「木枯らしが吹いてさわさわと音をたてる夜は恐かった」という。「雪が降れば、屋根から街道を行く人を狙って雪玉をころげ落として、当たれば命中、なんていたずらをして」ことも思いつく。今年になって長谷川さんは、「やはり書き残しておかねばいけない」と、中断していた日記を再開した。平成十九年には、どんな事件簿が書き綴られるやら。その一端をうかがってお伝えできればと思う。

千住の酒合戦

江戸前期「水鳥記」という仮名草子がベストセラーになった。水鳥とは酒の字を分解し、さんずいを水、酉を鳥と置き換えたシャレ。慶安二年(一六四九)地黄坊樽次と称する江戸の儒医茨木春朔が、一統とともに川崎の大師河原を開拓した富農・大蛇丸底深こと池上太郎左衛門幸広と飲み比べ、自演自作でそれを軍記風に仕立てた話が元になったという。ペンネームのように呑んべーに水鳥名を付けるというアイデアが、いかにも江戸っぽくて面白い。原本は今でも底深の子孫が保存している。川崎の若宮八幡宮とその周辺では、十月の第三日曜日を「水鳥の祭り」の日と定め、盛大な町起こしイベントが行われている。

切ったのは頌酒堂鯉隠、千住河原町青物問屋のご隠居で、誰でも参加できる酒の飲み比べ会であったが、酒井抱一ら当時一流の文人墨客が審査員とも立会人ともなつて高い評判を得たという。物語をイベントに再現したお大尽遊びであったろうが、その様子がさまざまに記録され、「後水鳥記」として絵巻物に残されたことにより、千住文化として現在に継承されることになる。

最も原本に近いといわれる「高陽蘭飲図巻」は、序文・亀田鵬斎、実況記録・太田南畝(蜀山人)、絵師・谷文晁、文一父子、漢詩・大窪詩仏、大酒杯模写・狩野素川、跋文・市川寛齋という錚々たるメンバーによって構成されている。

「千住にすめる鮒興」さんは「終に客をもてなして、小盃の数かぎりな」く飲んだと記録され、「二升五合入るといふ緑毛亀の杯にて三たびかたむけ」た小山宿の左兵衛さんの子孫は、先日開催された「宿場フォーラム」での報告によると、小山に今も在住とのことである。

<活動日誌 平成18年12月>

- 1日(金) 「かけはし」6号発行
- 7日(木) 遊学庵/全体会/講座準備
- 10日(日) 学びピア/[第4回千住文化基礎講座]
- 20日(水) 千住空襲写真パネル完成
- 23日(土) 千住戦跡展示企画検討
- 24日(日) 遊学庵/第8回千住塾連句会